

実施体制

[主 催]	低炭素杯 2013 実行委員会（委員長：小宮山宏）
[共 催]	株式会社 LIXIL、一般財団法人セブン・イレブン記念財団、 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
[特別協賛]	キリン株式会社、日本マクドナルド株式会社、公益財団法人 損保ジャパン環境財団
[特別協力]	ブリティッシュ・カウンシル、株式会社オルタナ、 特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク、 木原木材店（北はりま小径木加工センター）、日報ビジネス株式会社
[後 援]	環境省、プラチナ構想ネットワーク
[事 務 局]	低炭素杯 2013 実行委員会事務局（一般社団法人地球温暖化防止全国ネット）

実行委員会メンバー（順不同）

■委員長 小宮山 宏	プラチナ構想ネットワーク会長、三菱総合研究所理事長、東京大学総長顧問
■副委員長 川北 秀人	IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表
金谷 年展	東京工業大学 ソリューション研究機構 特任教授
■委員 水野 治幸	株式会社 LIXIL CSR・環境経営推進部 部長
伊藤 順朗	一般財団法人セブン・イレブン記念財団評議員 (株式会社セブン&アイ HLDGS 取締役執行役員 CSR 統括部長)
ジェフ・ストリーター	ブリティッシュ・カウンシル駐日代表
井田 徹治	共同通信社 編集委員・論説委員
和田 篤也	環境省地球環境局地球温暖化対策課 課長
長谷川 公一	一般社団法人地球温暖化防止全国ネット理事長

企画・審査委員会メンバー（順不同）

■委員長 金谷 年展	東京工業大学 ソリューション研究機構 特任教授
■委員 小野 弘人	一般財団法人セブン・イレブン記念財団 地域活動支援事業リーダー
芦田 亜紀	株式会社 LIXIL CSR・環境経営推進部 コミュニケーション推進グループグループリーダー
山村 宜之	キリン株式会社 環境推進部 環境情報担当
ヒュー・オリファント	ブリティッシュ・カウンシル 社会事業部 部長
岩谷 忠幸	NPO 法人気象キャスターネットワーク 事務局長
森 摂	株式会社オルタナ 編集長
菌田 紗子	株式会社クレアン 代表取締役
須藤 美智子	一般社団法人環境パートナーシップ会議 事務局長
更井 徳子	公益財団法人損保ジャパン環境財団 事務局長

ロゴマークの決定と表彰

低炭素杯のロゴマークを公募し、全国から 120 作品の応募がありました。

審査の結果、東京都の立志哲洋さんの作品を選定しました。

低炭素杯 2013 の開会式において、小宮山実行委員長より、表彰状と賞金を授与しました。



低炭素杯ロゴマーク 作品説明

炭素を吸収した葉っぱが広がっていいくイメージは、低炭素社会を築くための様々な活動が広がっていることを表現しています。

また、いろいろな葉っぱのかさなりがハートのマークになり、地球を愛する活動の連携を表わしています。

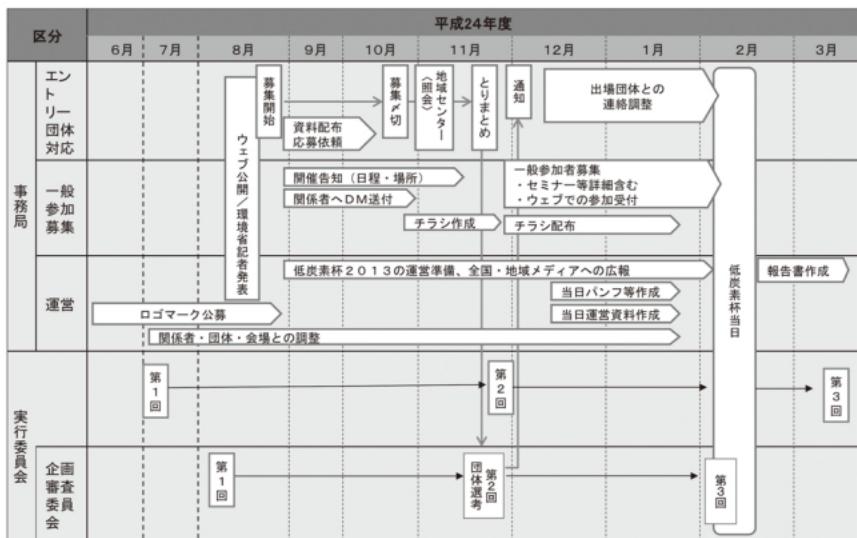
▲公募ガイド 12月号「今月のえりぬき」に選定



低炭素杯 2013 開催までの経緯

2012年	5月10日	低炭素杯2012プレゼンテーション動画をホームページへUP
	6月9日	ロゴマーク募集開始
	7月11日	第1回実行委員会
	8月10日	第1回企画・審査委員会
	9月3日	エントリー・ウェブサイト開設、環境省記者発表、エントリー募集ちらし作成（約20,000枚）、出場エントリー受付開始
	10月19日	出場エントリー受付〆切
	11月19日	第2回企画・審査委員会
	11月30日	第2回実行委員会
	12月6日	来場者募集ちらし作成（16,000枚）ポスター400枚作成
	2013年 2月16～17日	低炭素杯2013の開催（第3回企画・審査委員会）
	3月26日	第3回実行委員会

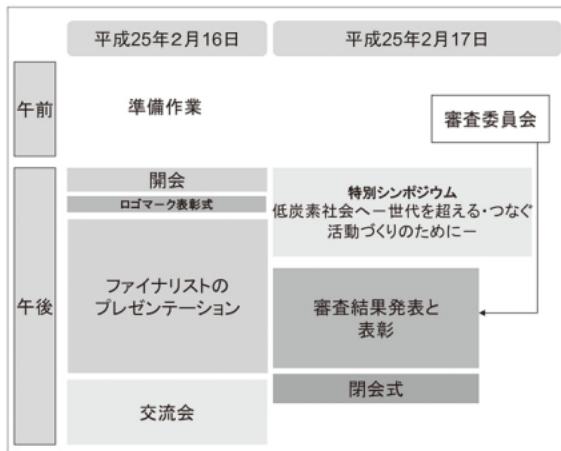
低炭素杯 2013 スケジュール



低炭素杯 2013 プログラムの概要

次世代に向けた低炭素社会の構築のため、学校、家庭、NPO、企業などの多様な主体が、全国各地で展開している地球温暖化防止に関する地域活動を報告し、学び合い、連携の輪を広げる“場”を提供することを目的に「低炭素杯 2013」を開催。ファイナリスト、一般参加者等、約 1,300 名が参集して、2013 年 2 月 16 日、17 日に東京ビッグサイト国際会議場で開催しました。プログラムの概要は以下の通りです。

プログラムの構成



プログラムのあらまし

2013 年 2 月 16 日 (土)

13:00 ~ 17:45

開会式 及び ファイナリストによるプレゼンテーション

低炭素杯 2013 実行委員会において、厳正な審査（エントリー書類の選考）を経て、次の 40 団体がファイナリストとして出場しました。各プレゼンテーションを①低炭素社会づくりへの貢献度、②活動の必要性、③活動の効果・先駆性を共通の審査項目とし、これに各部門別の審査項目を加え、10 名の企画・審査委員による審査が行われました。

◆ ファイナリスト (40 団体) 一覧 ◆

部門	当日の 発表順	団体名称	取り組み名称	所在 地域	掲載 ページ
地域活動部門 計 14 団体	23	大葛青若会	大葛七集落対抗節電大会	秋田県	30
	26	クールシェア事務局	クールシェア+ウォームシェア	東京都	34
	30	大丸有・神田地区等グリーン物流促進協議会／ 大丸有地区・周辺地区環境交通推進協議会	都心部商業業務エリア（千代田区大丸有地区等）に おけるグリーン物流と環境交通の一体・継続的取組み	東京都	36
	9	東京都荒川区	「節電のまち あらかわ」～低炭素スタイルへ GO!!～	東京都	29

部門	当日の発表順	団体名称	取り組み名称	所在地	掲載ページ
地域活動部門 計14団体	17	かわさき省エネグループ	川崎市内全域における地球温暖化防止活動	神奈川県	37
	36	福井信用金庫	エコともの輪	福井県	38
	34	特定非営利活動法人 さばえNPOサポート	ハビーエコタウンプロジェクト	福井県	39
	2	農業生産法人 有限公司 FRUSIC	温泉観光地の温泉による温泉観光地のための農業	岐阜県	40
	12	岐阜市地球温暖化対策推進委員会	省エネ成果をポイント化! ぎふ減CO2(げんこつ)ポイント制度	神奈川県	41
	14	とよた・あいち省エネで元気な事業所コンソーシアム	さんしゅう ECO 個楽部 小規模事業所省エネ活動促進事業	愛知県	42
	22	ソーラーバイクレース大会実行委員会	ソーラーバイクレース笑輸で地球温暖化防止!	静岡県	43
	16	京都炭素貯留運営委員会	農地炭素貯留技術を用いた農作物のエコ・ブランド化と地域活性化	京都府	18
	28	奈良市地球温暖化対策地域協議会 (社会実験ワーキンググループ)	社会実験「市民の省エネに向けた取組を支援する仕組みづくり」	奈良県	44
	18	NPO法人伊万里はちがめプラン	「生ごみを宝に!」資源循環による持続可能な地域社会を目指して	佐賀県	45
企業活動部門 計14団体	1	工藤建設株式会社	WE ENJOY OUR WORK	岩手県	46
	25	和賀製薬店	稻わらを循環資源として活用した「エコたたみ」	秋田県	27
	5	株式会社ナチュラルファームシティ 農園ホテル	農園ホテル移父における 低炭素社会構築へ向けた子供達の環境教育活動	埼玉県	26
	38	東日本旅客鉄道株式会社	エコスト (ecoste : environment earth conscious station of east japan railway company)	東京都	31
	35	Terra Motors 株式会社	フィリピンにおける3輪タクシー EV化プロジェクト	東京都	32
	31	レモンガス株式会社	全社員、地域、低炭素活動を推進する高校生が参加する 「低炭素技術・商品インキュベーションプロジェクト」	東京都	19
	7	日本興亜損害保険株式会社	お客さまとともに、被災地の早期復興を支援し森林を守る	東京都	47
	27	株式会社損害保険ジャパン	Web 約款で日本の自然を守ろう! SAVE JAPAN プロジェクト	東京都	48
	10	EVステーション・EVhonda 株式会社	地球温暖化防止の為・排ガスゼロ CO2削減の可能な コンバーティ EV の普及と啓蒙	新潟県	49
	6	株式会社 一条工務店	高性能省エネ・創エネ住宅の普及促進	静岡県	35
部ソジンシャン 門スヤル 計3団体	33	奈良交通株式会社	十津川方式 ~山間過疎地域におけるバス交通維持発展の取り組み~	奈良県	25
	32	合田燃料機器株式会社	アルミニユール	山口県	50
	39	エコワークス株式会社	住宅のプロによる「家庭(うち)エコ診断」 実施からはじめる持続可能な住まいづくりと暮らし方	熊本県	23
	15	ソニー・セミコンダクタ株式会社 大分テクノロジセンター	社内の省エネ活動及び地域と一緒にとなった森林保全活動	大分県	51
	29	ジャパンフォレスト株式会社グループ	割りばしー膳の革命	大阪府	52
	11	福岡市環境局	全国初!! 新省エネビジネス 「事業所省エネ技術導入サポート事業(ソフトESCO事業)」の導入支援	福岡県	33
	8	鹿児島大学 Sustainable Campus Project (SCP) ・JAグリーン鹿児島	発展する市民参加型生ごみ循環システム ~広がるパートナーシップ~	鹿児島県	20
	19	山形県立山形工業高等学校 環境システム研究会	リサイクルDE ポランティア	山形県	53
	24	栃木県立高等学校 村おこしプロジェクト班	麻の郷とちぎの環境資源を次世代に	栃木県	17
	3	神奈川県立中央農業高等学校 養豚部	エコファードが切り拓く 地域環境の未来 ~中農発「ちゅのとん」がめざす低炭素社会~	神奈川県	54
学生活動部門 計14団体	20	山梨大学/大学の油田:バイオディーゼル燃料(BDF)	大学の油田:バイオディーゼル燃料(BDF)	山梨県	55
	37	岐阜県立恵那農業高等学校	ゴミの山から宝の山へ~廻~ん大作戦~	岐阜県	21
	21	静岡県立富岳館高等学校 キノコ研究班	富士山の緑を守れ! ~神秘なる「きのこ」パワー~	静岡県	24
	4	京都府長岡京市立神足小学校	地域を繋げる体験型環境学習プログラム	京都府	28
	13	兵庫県立篠山東雲高等学校 しのめ山の芋研究チーム	山の芋グリーンカーテンで地域を活性化しよう	兵庫県	56
	40	阿南高専 再生可能エネルギー研究会	アジア留学生と小水力発電で環境人材育成と 国際交流を図る研究会活動	徳島県	22

2013年2月16日(土)

18:30～20:00

団体間交流会

ファイナリスト及び共催企業・団体等の意見交換・交流を図るため、会場近くの香港飲茶樓ル・パレクで団体間交流会を開催。約200名が参加しました。

2013年2月17日(日)

10:00～11:30

企画・審査委員会による表彰団体の選考

2月16日に行われた40団体によるプレゼンテーションを各委員が審査した結果をもとに、企画・審査委員会が開催され、各賞受賞団体が決定されました。

当初予定していた賞に加え、審査員特別賞として最優秀ソーシャル・イノベーション賞が追加表彰されました。

13:00～15:00

特別シンポジウム「低炭素社会へ～世代を超える・つなぐ活動づくりのために～」

◆趣旨

次世代に向けた低炭素社会の構築をめざして、学校・家庭・有志・NPO・企業など多様なみなさんが、学びあい、連携の輪を広げながら全国でまちづくり、ライフスタイル、エネルギーなど、様々なアプローチにより地球温暖化防止に関する地域活動に取り組んでいる。しかし、個々の活動が立体的・重層的につながろうとした時、世代間の壁をどうのり越え、つながっていくのか、その後の広がりや深まりをどのように強めていくのか、プロデューサーシップ発揮の方法など大きな課題であり、この克服が活動を進めていくにあたって必要不可欠となっている。本シンポジウムでは、低炭素社会の構築に向け“ネットワーク of ネットワーク s”の視点から世代間連携を含めたつながりのあり方について議論した。

◆パネルディスカッション

[コーディネーター]

川北 秀人 氏 IIHOE【人と組織と地球のための国際研究所】代表

[パネリスト]

湯谷 千鶴子 氏 香川大学直島地域活性化プロジェクト（香川大学 経済学部2年生）

東 大史氏 株式会社エコブランド代表

安井 レイコ 氏 エッセイスト＆料理研究家、NPO 法人みんなのエコイク推進協会理事長

井田 徹治氏 共同通信社 編集委員・論説委員（環境・開発エネルギー問題担当）

茅野 實氏 元八十二銀行頭取、一般社団法人長野県環境保全協会会长、長野県地球温暖化防止活動推進センター長

15:30～16:30

審査結果発表・表彰式及び閉会式

環境大臣賞としてグランプリ（1団体）、金賞（各部門から1団体、計4団体）が授与されました。審査員特別賞（最優秀ソーシャル・イノベーション賞）5団体を表彰しました。また、協賛・協力企業／団体賞として12団体を表彰しました。

今年から一般市民を対象に公募した「特別審査員」（応募24名、当日参加16名）が審査した特別審査員賞2団体、合計19団体を表彰しました。

なお、低炭素杯トロフィーは、協働して制作した福島県石川町立野木沢小学校の6年生から、「復興の花」と合わせて環境大臣賞の各団体に贈られました。

環境マンガ展について



作者 高月 純

1941年（昭和16年）、京都府生まれ。
石川県立大学教授・京都大学名誉教授。
日本漫画家协会会员。専門は廃棄物管理。
High Moon（ハイムーン）のペンネームで、
環境・廃棄物問題を訴えるマンガ家として
活動している。日本全国をはじめ、イギリス、
中国、インドネシア、マレーシアでも
個展を開催。



トロフィー制作の経過と写真展の開催

福島県石川町立野木沢小学校の6年生（18名）が、東日本大震災を乗り越えて卒業を迎える自分自身への贈り物とするために、地元の樹木（樹齢100年のモミジ）を使ったトロフィーの制作を行いました。この作業は、低炭素杯2013のトロフィー制作の一環として、造形家：齊藤公太郎さんの指導で行われ、同じ素材を使って、低炭素杯2013のトロフィーは制作されました。



制作の経過

2012年10月23日

2012年11月6日

2013年1月18日～19日

石川町立野木沢小学校へトロフィー作りの協力依頼、6年生と顔合わせ

生徒の参加でモミジを伐採（提供：仲田種苗園）、樹皮をとる。

制作ワークショップ



▲放射能測定



▲枝を切る



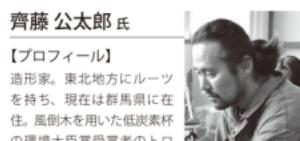
▲枝の樹皮をとる



▲4人の宮城大学生が制作をサポート



組立加工▶



齊藤 公太郎 氏

【プロフィール】

造形家。東北地方にルーツを持ち、現在は群馬県に在住。風倒木を用いた低炭素杯の環境大臣賞受賞者のトロフィーなどを手がけてきたアーティスト。低炭素杯2012では、東日本大震災大きな被害を受けた石巻市立湊小学校の子供達と一緒に、子供達自身が東日本大震災などを乗り越えて卒業を迎える自分自身への記念トロフィーを指導し、併せて低炭素杯2012トロフィーを完成させた。

トロフィー制作に対する福島県の小学生からのメッセージ

●原発を乗り越えるために

石川町立野木沢小学校 6 年生 18 人が原発への想いや希望を形にしました。子供たちの原発体験や負の記憶を克服するためには、プラスの経験を積み上げるしかありません。父母や学校関係者は今回のトロフィー制作に賛同し、地域の期待も大きいものがあります。

●福島の子供が担う低炭素社会

原発事故によって、福島県の小学生は 14,344 人が県外に転校しました。福島県石川町は、放射線量が首都圏並みに低いクールスポットです。しかし風評被害の影響は深刻で、同町内小学生の一部父兄は転職を余儀なくされ、祖父母が作った農産物が売れないと現状が続いています。原発の影響は子供たちの生活や将来を不安にさせ、心の底に沈没しています。

低炭素社会を実現して、人類を永続させるためには、電力を過消費する現在の生活を改めて、自然と共に共生してきた日本本来のライフスタイルを再評価する必要があります。齊藤さんは、「子供たちは原発事故後の福島をつくり、日本のエネルギー問題に向き合うことになる」と今回のワークショップの意義を話しています。

安心できる低炭素社会を実現するのは、原発被害と向き合いながらも、自然の美しさと尊さを知る福島の子供たちだと思います。

●福島の子ども達からのメッセージ

モミジは日本の四季

美を代表する樹木です。また福島県は全国でもモミジの種類が多く、この地域の自然の豊かさを表しています。トロフィーの素材は、推定樹齢 100 年樹高 12 メートルのオオモミジ。昨年の低炭素杯ソーシャルビジネス部門環境大臣賞を受賞、またモミジ生産者として海外にも知られる（有）仲田種苗園（代表取締役、仲田茂司）から提供を受けました。仲田氏は「昨年いただいたガレキトロフィーからは生命や希望を感じ取った。このモミジは樹勢が弱り寿命が近づいたので、子供たちに新しい命を吹き込んでほしい」と願っています。

「原発事故の被害に向き合った児童に、トロフィー制作を通じて、メッセージを送ってもらうことで、問題の本質につながる」（齊藤さん）。この作業を体験した生徒は、「見てくれる人に元気を与えるようなトロフィーに仕上げたい」（草野修吾君）と意欲を燃やしています。また作業をサポートした仲田種苗園の社員の皆さんには、「小学生の一生懸命な姿や明るさに元気をもらった」と感激していました。

●被災地の子供をつなぐ宮城大生

今回の野木沢小学校のトロフィー制作は、宮城大学生 4 人がサポートしてくれました。彼ら自身も宮城県で被災し、南三陸町の実家を津波で流された石巻の高校出身者もいます。

彼らは昨夏以来石川町で開催した造園の大学生ワークショップの一環として野木沢地区での活動を継続しています。宮城と福島を結ぶ不思議な縁が、トロフィー制作を通して、東北人としての絆が深まっています。



▲石川町立野木沢小学校 6 年生のみなさん

トロフィー制作の写真展

